

あいち病害虫情報 最新情報

平成 2 1 年 7 月 1 5 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

梅雨明け間近？

東海地方は今日現在、まだ梅雨明けしていません（平年値は7月20日）。6月は9日に梅雨入りした後、周期的に天気は変わりましたが、平年同様に曇りや雨の日が多く気温、降水量、日照時間いずれも平年並に推移しました。向こう1か月の季節予報によれば、期間の前半は梅雨前線や気圧の谷の影響で平年と比べ曇りや雨の日が多く、期間の後半は平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みとされています。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、天候を考慮に入れて、的確な防除を心がけましょう。農薬の散布に際しては日中を避け、朝夕の涼しい風の少ない時間帯を選んで作業するなど、健康管理にも留意しましょう。

イネの病害虫

葉いもちが県内各地のほ場で確認されるようになり、一部地域において発生量がやや多い状況となっています。今後、曇雨天が続くと、コシヒカリ等では葉いもちから穂いもちへの移行が心配されるます。なお、いもち病の発生状況や防除薬剤については、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

セジロウンカは、県内各地のほ場で確認されていますが、今のところ数は多くはありません。トビイロウンカについては、現在のところ発生を確認していません。

イネドロオイムシの発生が、山間地において平年より多い状況です。前年発生が多かった地域では、発生状況に注意しましょう。

斑点米カメムシ類に注意！！

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカスミカメムシ類が、畦畔のイネ科雑草を中心に平年より多く確認されています。また一部のほ場では、昨年新たに確認したミナミアオカメムシの本田への侵入が確認されています。詳しくは、本日発表の「斑点米カメムシ情報第2号」を参照してください。特に出穂を迎えるほ場においては、今後、カメムシ類が増加してくると予想されますので、十分に注意して下さい。

果樹の病害虫

モモでは、モモハモグリガのフェロモントラップにおける誘殺数は少ない状況が続いています。梅雨明け後は増加する時期ですので、収穫後には薬剤散布を適宜行い、放任しないようにしましょう。モモ灰星病は、感染源である花腐れ発生量が平年並であったことから平年並と考えられますが、十分注意し、万一発病果を見つけたら直ちにほ場から持ち出して適切に処理しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分するとともに、耐性菌の発生を避けるため同一系統薬剤の連用を避けて防除を行うよう心がけましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並からやや少ない状況で推移しています。しかし、7月以降は果実に侵入する重要な時期になります。成虫の発生ピークから10日後頃が防除適期になりますので、フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期防除を心がけましょう。また、コンフューザーを設置しているほ場で、7月以降に再度設置する予定がない場合、収穫期間中に効果が低減してナシヒメシンクイ等による被害が出る可能性が考えられます。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

ブドウでは、曇雨天が続くとべと病が急激にまん延する場合がありますので、注意しましょう。

ウンシュウミカンのチャノキイロアザミウマ

アメダス各地点におけるチャノキイロアザミウマの第4世代成虫の発生ピークは、東海市7/20、名古屋市7/20、愛西市7/24、蒲郡市7/24、岡崎市7/25、豊田市7/26、豊橋市7/26、南知多町7/27、伊良湖7/27と予測されています。また、稲武では第3世代成虫の発生ピークが8/1と予測されます。発生ピーク時の薬剤散布が防除効果が高いので、ほ場を観察し、防除に努めましょう。ウンシュウミカンとブドウの防除薬剤については、7月1日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

果樹カメムシ類

予察灯及びフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、少ない状況が続いています。

現在、チャバネアオカメムシはスギ・ヒノキ球果を餌として生育していますが、球果が餌として適さなくなると果樹園に飛来してきます。しかし、今年は越冬世代成虫が平年並で、スギ・ヒノキ球果数も平年並以上に多いので、7月に果樹園へ大量飛来する可能性は低く、果樹カメムシ類を対象とした防除体系を7月に組む必要はないでしょう。

オオタバコガの発生に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや多くなっており、キクほ場（稲沢市、豊川市）に設置したトラップでは、例年に比べ早い時期から誘殺数が増加しています。ほ場での発生状況に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

トマトの苗はタバココナジラミの寄生に注意！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるTYLCVの感染を防ぐため、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（0.4mm以下）を設置しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

- ・防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

農薬の空容器は、ほ場などに放置せず、適切に処理しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820